

令和 7 年度 大阪桐蔭中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- ・建学の精神「偉大なる平凡人たれ」と、桐蔭の教育方針「鼎立なりて碩量を育む」のもと、徳知体教育の充実を図ります。
- ・生徒一人一人が希望する進路、目標、自己実現を達成できる学校となります。
- ・高校 3 ャ年それぞれのコースに応じた教育カリキュラム、また、設置するⅠ類・Ⅲ類のコース教育の特性を一層伸長させます。
- ・大阪桐蔭として日本を代表する中等教育機関としての地位を確立します。

2. 中期的目標

1. 建学の精神・教育方針に基づく教育の実践
- (1)Ⅰ類の難関国公立大学進学実績の向上、「学習指導要領」改訂に伴うカリキュラムと授業内容の検証、および教学面の充実

(2)配慮を要する生徒への支援体制の強化

(3)教員の指導力の向上

(4)Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍の支援体制の整備と、活躍の継続に向けた、指導者の後継者育成の推進

(5)生徒のマナー向上

(6)学校行事の充実とⅢ類以外の課外活動の活性化
2. 大阪産業大学および附属高校との連携
- (1)大阪産業大学とのスポーツクラブの交流を促進

(2)「特別推薦入試制度」による大阪産業大学への進学に関わる連携の強化

(3)附属高校とのスポーツクラブ交流の促進
3. 地域との連携
- (1)地元地域との連携および貢献の推進、地元地域に理解される学校の実現

(2)災害等の非常時に地域への支援・協力を実行できる体制の構築
4. キャンパス整備
- (1)校舎の集約と100周年事業に向けた「キャンパス整備計画」の策定

(2)スポーツクラブの練習場の整備

(3)寮の新設に関する検討の推進

(4)老朽化に伴う建物や設備の点検および修繕

(5)ICT教育の推進環境の整備

(6)教員へのPC貸与

(7)老朽化した電気機械・器具の更新
5. 卒業生および保護者との連携の強化
- (1)桐友会・桐友会OB会・同窓会の3つの外郭団体との連携強化および学校による団体間連携の促進

(2)各会からの支援の有効性の向上

(3)必要に応じた各会の規約の見直し

(4)保護者とのコミュニケーションツールとしてのWebサイトおよびミマモルメの活用
6. 安定した運営とブランド力の強化
- (1)コース編成、学則定員、募集定員および学納金の継続的な見直し

(2)効果的な広報活動による入学者の確保

(3)広報・渉外部の充実

(4)Ⅰ類の進学実績とⅢ類クラブの実績の向上、在籍生徒と保護者の満足度の向上および受験生へのアピールの強化

(5)優秀な教員の確保
7. コンプライアンスへの取り組み
- (1)各種規程の整備・周知およびコンプライアンスの徹底

(2)「学校法人大阪産業大学情報管理基本規程」に基づく、法人のサポートのもとでの情報管理体制の構築

(3)人権教育・ハラスメント教育・体罰・いじめ等に関する研修の実施

(4)クラブ活動におけるコンプライアンスの取り組みの推進

3. 学校関係者評価委員会からの意見

評価アンケートの結果と分析（令和8年4月実施 主な項目を抜粋）	学校関係者評価委員会からの意見
■ 授業に関して ○ 授業の進度について R7 適正である（中学 78% 高校 85%）、遅くしてほしい（中学 15% 高校 9%） R6 適正である（中学 78% 高校 82%）、遅くしてほしい（中学 17% 高校 11%） R5 適正である（中学 80% 高校 82%）、遅くしてほしい（中学 14% 高校 10%） R4 適正である（中学 81% 高校 80%）、遅くしてほしい（中学 14% 高校 11%） R3 適正である（中学 78% 高校 80%）、遅くしてほしい（中学 16% 高校 10%） ○ 授業の内容について R7 非常にわかりやすい・わかりやすい（中学 91% 高校 89%） R6 非常にわかりやすい・わかりやすい（中学 89% 高校 89%） R5 非常にわかりやすい・わかりやすい（中学 90% 高校 88%） R4 非常にわかりやすい・わかりやすい（中学 90% 高校 87%） R3 非常にわかりやすい・わかりやすい（中学 90% 高校 88%） ○ 授業に対して満足しているか R7 非常に満足・満足（中学 93% 高校 92%） R6 非常に満足・満足（中学 92% 高校 91%） R5 非常に満足・満足（中学 92% 高校 90%） R4 非常に満足・満足（中学 92% 高校 88%） R3 非常に満足・満足（中学 91% 高校 90%） ○ 宿題の量について R7 適正である（中学 71% 高校 82%）、多すぎる（中学 15% 高校 8%） R6 適正である（中学 73% 高校 79%）、多すぎる（中学 17% 高校 9%） R5 適正である（中学 75% 高校 80%）、多すぎる（中学 13% 高校 10%） R4 適正である（中学 75% 高校 76%）、多すぎる（中学 12% 高校 12%） R3 適正である（中学 72% 高校 76%）、多すぎる（中学 15% 高校 9%） 【授業に関する評価は、いずれの項目もポイントが上昇もしくは昨年と同程度となっている。約 90%の生徒が「授業内容がわかりやすく、満足している」と答えており、質の高い教育ができているものと評価できる。また、約 80%の生徒が授業の進度、宿題の量についても「適正である」と評価しており、授業での工夫が見て取れる。その一方で「授業が早い、宿題が多い」と感じている生徒がいることにも留意し、引き続き個別指導等も行いながら「わかりやすい授業」を心掛け、さらに満足度が向上するよう努めていきたい。】 ■ 教員に関して ○ 教員は熱心に授業を行っているか R7 肯定的評価（中学 96% 高校 97%） R6 肯定的評価（中学 95% 高校 95%） R5 肯定的評価（中学 95% 高校 95%） R4 肯定的評価（中学 96% 高校 95%） R3 肯定的評価（中学 95% 高校 96%） ○ 教員は、質問をしやすいですか（聞いてくれる） R7 肯定的評価（中学 91% 高校 87%） R6 肯定的評価（中学 91% 高校 88%） R5 肯定的評価（中学 90% 高校 86%） R4 肯定的評価（中学 94% 高校 95%） R3 肯定的評価（中学 95% 高校 94%） ○ 教員は、あなたの悩みを聞いてくれますか R7 肯定的評価（中学 88% 高校 86%） R6 肯定的評価（中学 90% 高校 86%） R5 肯定的評価（中学 86% 高校 84%） R4 肯定的評価（中学 90% 高校 90%） R3 肯定的評価（中学 89% 高校 88%） ○ 教員は、あなたに問題が起こったときにしっかり対応してくれますか R7 肯定的評価（中学 93% 高校 87%）	■授業に関して ・授業の分かりやすさ、満足度がともに中高で 90%前後と過去 5 年間で最も高い水準となり、保護者として大変心強く感じております。一方、中学校では宿題の量を「適正」とする回答が 2 年続けて下がっています（75%→73%→71%）。量の問題なのか、目的が伝わっていないのかを確認いただき、次年度にご報告をお願いします。 ・授業の進展について、昨年度より「遅くしてほしい」が減少していることが評価される。 ・授業内容や授業に対して満足しているかについて、「わかりやすい」や「満足している」という評価が継続して高いことから、学校の特徴として学校案内などにも記載してアピールしてはどうか。 ・各項目において高評価を維持することは大変なことであると推察しますが、各年度不足している部分は一定数あり、個別指導での対応だけでなく、他の取り組みも検討願います。 ■ 教員に関して ・「熱心に授業を行っている」が中学 96%・高校 97%と非常に高く、先生方の日々のご指導に深く感謝申し上げます。ただ、高校では「質問のしやすさ」「問題が起こったときの対応」が令和 4 年度の 95%から 86～88%に下がったまま回復していません。子どもたちが気軽に相談できる雰囲気づくりを、引き続きお願いいたします。 ・授業がわかりやすいというのと、授業の雰囲気と、先生への質問しやすさを区別して考え、授業のわかりやすさと先生の熱心さは共通しているものがあると思います。しかし、熱心すぎて生徒への質問しやすい環境、話しやすさへの配慮を今一度俯瞰して考えてみる必要もあると思います。先生が生徒に近い環境をうたっている大学もあることから、そういったニーズは高いと思われます。私立学校として今後減少していく生徒数を確保していく過程で長期的な目標として対応していく必要があるのではないのでしょうか。 ・総評では寄り添う姿勢が評価されているということだが、悩みに関してはそうかもしれないが、授業の雰囲気についての寄り添いを考慮すべきではないか。

R6 肯定的評価（中学 94% 高校 88%）
R5 肯定的評価（中学 97% 高校 87%）
R4 肯定的評価（中学 95% 高校 95%）
R3 肯定的評価（中学 96% 高校 96%）

【授業に関する評価と同様に、教員に対する評価についても高い評価を維持しており、生徒に寄り添う姿勢が評価されているものとする。引き続き、一人一人の生徒に寄り添う姿勢を大切にしていきたい。】

■ 学習への取り組みに関して

○ あなたは、授業をしっかりと聞いていますか

R7 肯定的評価（中学 93% 高校 95%）、否定的評価（中学 7% 高校 5%）
R6 肯定的評価（中学 96% 高校 95%）、否定的評価（中学 4% 高校 5%）
R5 肯定的評価（中学 93% 高校 94%）、否定的評価（中学 7% 高校 6%）
R4 肯定的評価（中学 92% 高校 93%）、否定的評価（中学 8% 高校 7%）
R3 肯定的評価（中学 93% 高校 94%）、否定的評価（中学 7% 高校 6%）

○ あなたは、授業の予習・復習をきちんとしていますか

R7 肯定的評価（中学 51% 高校 59%）、否定的評価（中学 49% 高校 41%）
R6 肯定的評価（中学 46% 高校 52%）、否定的評価（中学 54% 高校 48%）
R5 肯定的評価（中学 50% 高校 55%）、否定的評価（中学 50% 高校 45%）
R4 肯定的評価（中学 48% 高校 58%）、否定的評価（中学 52% 高校 42%）
R3 肯定的評価（中学 48% 高校 58%）、否定的評価（中学 52% 高校 42%）

○ あなたは、宿題や課題にきちんと取り組んでいますか

R7 肯定的評価（中学 75% 高校 85%）、否定的評価（中学 25% 高校 15%）
R6 肯定的評価（中学 75% 高校 85%）、否定的評価（中学 25% 高校 15%）
R5 肯定的評価（中学 79% 高校 87%）、否定的評価（中学 21% 高校 13%）
R4 肯定的評価（中学 82% 高校 86%）、否定的評価（中学 18% 高校 14%）
R3 肯定的評価（中学 84% 高校 86%）、否定的評価（中学 16% 高校 14%）

○ あなたは、早朝テスト・終礼テストに真剣に取り組んでいますか

R7 肯定的評価（中学 82% 高校 82%）
R6 肯定的評価（中学 79% 高校 84%）
R5 肯定的評価（中学 91% 高校 85%）
R4 肯定的評価（中学 90% 高校 87%）
R3 肯定的評価（中学 86% 高校 88%）

○ あなたは、模試を真剣に受験していますか

R7 肯定的評価（中学 93% 高校 94%）
R6 肯定的評価（中学 87% 高校 89%）
R5 肯定的評価（中学 91% 高校 91%）
R4 肯定的評価（中学 91% 高校 92%）
R3 肯定的評価（中学 90% 高校 91%）

【中学校・高校ともに「模試受験への取り組み」については大きくポイントが上昇した。一方で、昨年度と比べ改善しているものの中学校での「授業の予習・復習への取り組み」については、肯定的評価が 50%程度となっている。ただし、この点については生徒の意識の中で、「宿題や課題への取り組み」が「授業の予習・復習への取り組み」にもなっている」との認識が低いことから、少し低い値となっていると考えられる。また、高校での「早朝テスト・終礼テストへの取り組み」について、年々ポイントが低下している点については原因の究明とその対策が必要とする。

■ 学校行事に関して

○ あなたは、学校行事に真剣に取り組みましたか

R7 肯定的評価（中学 96% 高校 97%）
R6 肯定的評価（中学 96% 高校 95%）
R5 肯定的評価（中学 95% 高校 95%）
R4 肯定的評価（中学 93% 高校 90%）
R3 肯定的評価（中学 92% 高校 88%）

・教員に対する評価についても高い評価を維持しておりますが、「教員は質問しやすいですか（聞いてくれる）」は、維持ではなく低下しているように見えますが、何か要因があるのでしょうか。

■ 学習への取り組みに関して

・予習、復習に取り組む生徒が中学 51%、高校 59%に増え、模試への姿勢も大きく向上したことを嬉しく思います。一方、高校の早朝テスト、終礼テストへの取り組みは 4 年連続で低下しています（88%→82%）。原因と対策を次年度にお示しください。家庭学習の習慣づけについては、保護者としても協力してまいります。

・予習復習について、予習復習の大切さを知っていながら、否定的意見なのか、全否定しているのか深掘りすれば改善の余地がありそう。

・学習への取り組みに関して、高く評価されている項目がある一方で、評価が落ちているものがある。原因究明が重要であり、次年度の学校評価では、原因と対策の報告をお願いいたします。

■ 学校行事に関して

・高校の満足度が 80%から 91%へ大きく上昇し、令和 3 年度の 42%から着実に回復して中高とも 90%を超えたことは、大変喜ばしい成果です。芸術鑑賞の内容の工夫や、宿泊行事で行程、食事、安全性を重視した業者選定に見直されたことが、結果につながっていると受け止めています。

今後は、満足度の高かった行事とその理由を生徒アンケートで把

○ あなたは、学校行事には満足していますか

R7 肯定的評価（中学 92% 高校 91%）
R6 肯定的評価（中学 92% 高校 80%）
R5 肯定的評価（中学 88% 高校 74%）
R4 肯定的評価（中学 75% 高校 56%）
R3 肯定的評価（中学 62% 高校 42%）

【学校行事については、中学校・高校の全ての項目において昨年度と同等以上の評価となった。特に高校における「行事への取り組み、満足度」については、年々評価が高くなっており、いずれの評価においても最高値となった。

何に対しても一生懸命頑張るのが本校生徒の特徴であり、充実した学校生活が送れるように、今後においても、より充実した内容に見直していくことを心掛けて行きたい。】

■ 学校生活に関して

○ あなたは、学校生活を楽しく感じますか

R7 肯定的評価（中学 93% 高校 91%）
R6 肯定的評価（中学 91% 高校 86%）
R5 肯定的評価（中学 88% 高校 83%）
R4 肯定的評価（中学 87% 高校 81%）
R3 肯定的評価（中学 86% 高校 78%）

【学校生活に関しても、中学校・高校ともに年々評価が高くなっており、直近 5 年間で最高値となった。今後においてもさらに充実した学校生活が送れるよう生徒をサポートしていきたいと考えている。】

■ その他

○ あなたは、校則をしっかり守っていますか

R7 肯定的評価（中学 94% 高校 98%）
R6 肯定的評価（中学 96% 高校 97%）
R5 肯定的評価（中学 95% 高校 97%）
R4 肯定的評価（中学 96% 高校 97%）
R3 肯定的評価（中学 95% 高校 97%）
R2 肯定的評価（中学 97% 高校 97%）

○ あなたは、挨拶をしっかりしていますか

R7 毎回挨拶をする（中学 48% 高校 58%）
たまにする（中学 46% 高校 38%）、ほとんど・全くしない（中学 6% 高校 4%）
R6 毎回挨拶をする（中学 52% 高校 61%）
たまにする（中学 45% 高校 36%）、ほとんど・全くしない（中学 3% 高校 3%）
R5 毎回挨拶をする（中学 51% 高校 59%）
たまにする（中学 44% 高校 38%）、ほとんど・全くしない（中学 4% 高校 3%）
R4 毎回挨拶をする（中学 52% 高校 55%）
たまにする（中学 43% 高校 42%）、ほとんど・全くしない（中学 5% 高校 3%）
R3 毎回挨拶をする（中学 50% 高校 55%）
たまにする（中学 44% 高校 41%）、ほとんど・全くしない（中学 6% 高校 4%）

【校則に関してはよく順守されており、学校の規律がよく保たれていると評価できる。しかし、毎回挨拶する生徒が半数程度に留まっており、引き続きホームルームや集会等において根気強く指導を行っていく必要があると考えられる。また教職員から生徒に率先して声をかけ、挨拶を習慣づけることも必要である。】

握し、生徒自身が企画・運営に関わる機会を広げることで、主体性や協働する力の育成にもつなげていただきたいと思います。

・楽しい学校生活を送るためにいろいろなイベントの工夫に評価されているようです。

・年々評価が上がってきており、素晴らしいことですが、生徒に何が評価されたのか、年度ごとに把握されていますでしょうか。

■ 学校生活に関して

・「学校生活が楽しい」が中学 93%、高校 91%と過去 5 年間で最も高くなり、保護者として安心しております。一方で、そう感じられていない生徒も 1 割近くおりますので、一人ひとりへの丁寧な目配りをお願いいたします。

・生徒が楽しく学校生活を送れているのは、生徒がどの部分に楽しさを感じているか深掘りできているので昨年度よりも高評価なのではないでしょうか。

・学校生活に関して、何を評価して高評価につながっているのか把握することが充実した内容に見直すには必要だと思います。

■ その他

・校則は中高ともによく守られており、落ち着いた環境で学べていることに感謝いたします。挨拶については、「毎回する」が中学 48%、高校 58%と昨年度より下がっており、気がかりです。家庭でも声かけに努めますので、生徒が自ら進んで挨拶できる取り組みをお願いします。また、令和 8 年度からの携帯電話の持込みにについては、使用ルールを保護者にも丁寧にお知らせください。

・学校に訪問した際に「この人誰？」のまえに挨拶する習慣をつけましょう。社会に出ても役に立ちます。

・何故、挨拶しないのか想定される理由をアンケートに追加して確認することもご検討ください。

■ 総括

・授業、行事、学校生活の満足度がいずれも過去最高の水準となり、先生方のご尽力に改めて感謝申し上げます。挨拶や家庭学習な

	ど課題の残る項目については、桐友会としても学校と同じ方向を向いて協力してまいります。 ・教員と生徒の信頼感などを大切にきて来年に向け引き続き頑張っていたきたい。 ・各アンケート評価でもコメントしましたが、何が評価されて高評価なのか、低評価なのかを分析結果をコメント願います。また、同じ内容でアンケートを取り続けることも重要ですが、更に深掘しアンケート等で変化（派生アンケート）を付けなければ改善のための分析ができないと思います。ご検討ください。
本年度の取組内容及び自己評価に関する意見	
・野球部の選抜大会優勝をはじめとするⅢ類クラブの活躍、難関国公立大学への多数の合格は、在校生と保護者にとって大きな誇りです。新たに設置されたプロシードコース・エクシードコースの成果にも期待しております。 ・扉の更新、給水機やカーテンの取替、全国大会出場時の応援など、桐友会の支援を有効に活用いただいていることを嬉しく思います。今後も、生徒の学校生活に直接役立つ支援を、学校と相談しながら進めてまいります。 ・キャンパス整備は「具体的な検討に至っていない」項目が多く見られます。寮やグラウンドは生徒の生活と安全に関わりますので、学園創立 100 周年に向けた見通しを、可能な範囲で保護者にもお示しいただければ幸いです。 ・年々減少していく生徒数の確保のために学校の特徴を教員全体で共有して強い大阪桐蔭高校にしていもらいたい。 ・「〇〇〇の大阪桐蔭」というキャッチフレーズを作れるような学校作りをお願いいたします。 ・単年度の評価に終わらせず、PDCA が機能し、どのように改善されたかを示すようにご検討ください。また、学校評価（アンケート内）で評価者からの疑問や報告を求める意見等には、次年度のアンケート総括で回答いただけるようご検討ください。 ・昨今、学校運営（授業・行事・クラブ活動等）について、マスコミ等で話題になることが多発しています。現在のところ問題なく計画・運営されておられますが、ステークホルダーは危機管理体制が気になるかと思います。「本年度の取組内容及び自己評価」においてふれている箇所もありますが、自己点検を兼ねて、学校評価の中で報告できるように検討をお願いします。	

4． 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 【 】内は今後の課題・改善方策
1. 建 学 の 精 神 ・ 教 育 方 針 に 基 づ く 教 育	(1) 教学面の充実	①「学習指導要領」の改訂に伴って再編をしたカリキュラムにおいて、各教員が新学習指導要領に基づく将来に向けた3つの力の養成の認識を深め、効率的な授業を展開する。 ②一貫生については早い段階で進路指導部と学年が連携し、6年をかけて成績を向上させる取り組みを行う。	新学習指導要領への対応状況 学習意欲・学力の伸張度	①教務部・教科・学年で会議を開き、新カリキュラムに沿った効率的な授業を実践した。また、プロジェクトワークや各クラブ活動の推進により生徒の自主的な学びの場を提供し、英語弁論大会への参加、学会主催シンポジウムでの研究発表、大学生とのディベート対決などを通じて生徒の主体性、協調性、思考力、表現力等の育成を行った。 【新学習指導要領の観点別評価に関して、教科担当者の理解を深め、更なる効率的な授業の促進が必要である。】 ②一貫生については早い段階で進路指導部と学年が連携し成績を向上させる取り組みを行った。

の 実 践		③中学、高校それぞれの牽引役としての役割を担う、中学プロシードコース、高校エクシードコース（クラス）の教科内容の充実を図り、大学進学実績の向上を目指す。	エクシードクラスの進学実績	【取り組みの結果を確認し、次年度以降の取り組みに反映させる。】
		④学習合宿・受験対策合宿などの実施時期・回数・内容について検討を行い、効果的で充実した内容にする。	学習合宿等の実施状況	③高校エクシードクラスで培った授業・指導方法を活かし、令和7年度に設置した中学プロシードコースおよび高校エクシードコースで授業と指導を実践し、更なる進学実績の向上を目指した。 【更なる進学実績の向上を目指し、高い目標を持った生徒が増えることによる他のコースへの波及効果を目指す。】
		⑤各種模擬試験・各種検定について、その都度結果の分析を行い、課題点を見つけて対策を考えるなど、効果的に活用する。	模擬試験の生徒へのフィードバック状況	④エクシードクラスの学習合宿では内容の充実が進むなど、各学校行事は予定どおり実施できた。次年度以降の行事については内容を精査し、宿泊行事については、入札で業者を選定した。 【入札における仕様書の内容を精査し、さらに充実した宿泊行事の実施を目指す。】
	(2) 配慮を要する生徒への支援体制の強化	⑥ICT教育の充実を図るとともに情報リテラシーの向上を目指す。 ①不登校・発達障害・家庭環境などの問題を抱えた生徒が、安心して登校し授業が受けられるよう保健室・教育相談・人権教育推進部・生徒指導部・学年・担任・保護者が協力し支援できる体制の強化に取り組む。 ②いじめ問題が発生した場合は「いじめ対策委員会」によって対応するなど、トラブルに対しては個人ではなく、組織的に対応する。	学習環境の整備と研修の実施 生徒が抱える問題への早期対応 組織的な対応状況	⑤各種模擬テスト・各種検定・志望校調査を効果的に実施した。模試の結果を学年・教科ごとに分析し、課題点を見つけ、次の模試に向けて対策を考えるなど、生徒へフィードバックを行った。 【学年・教科担当と進路指導部との連携を図り効果的な実施ができた。今後も模試の結果を生徒へフィードバックすることが重要である。】 ⑥情報演習室やインターネット回線を整備し、情報学習環境の充実を図るとともに、SNS研修や情報科目内の教育で生徒の情報リテラシーの向上を目指した。 【ICTによる教育実践例を蓄積するとともに研修内容の効果を検証しながら情報化教育を推進していくことが重要である。】 ①不登校・発達障害・家庭環境などの問題を抱えた生徒が、安心して登校し授業が受けられるよう、担任が個人で対応するのではなく、学年・人権教育推進部・生徒指導部・保健室・保護者等が情報を共有し、教育相談（教育カウンセラー）とも連携して対応した。 【個々の教員が問題を抱え込むことなく、教員同士が相談しやすい組織で解決する更なる環境づくりを目指す。】 ②いじめ問題などのトラブルが発生した場合は個々に対応するのではなく、「いじめ対策委員会」で対応するなど、組織的に対応した。 【個々の教員が問題を抱え込むことなく、教員同士が相談しやすい組織で解決する更なる環境づくりを目指す。】

(3) 教員の指導力向上への取り組み	①効果的な内部研修会の実施とともに外部研究会・研修会へ積極的に参加し、教員としての資質を高める。	研修への参加状況	①学内で研修会や講演会を実施するとともに、各教員が外部研究会や研修会に積極的に参加し、教員としての資質の向上を図った。 【研修内容の充実とともに参加率の向上に努める。】
	②授業力の向上に向けて研究授業の機会を増やす。	研究授業の実施	②各教員が自発的に他の教員の授業見学を行い、授業力向上に努めた。また、入試説明会の際などに保護者に授業を公開し、授業力の向上に役立てた。 【特に新任教員においては研究授業等を実施し授業力の向上を図ることが重要である。】
	③授業アンケート・自己評価アンケートの結果および学校関係者評価委員会の評価をフィードバックし、低評価な項目があれば改善を図る。	授業評価アンケートの実施 学校関係者評価委員会の開催	③授業アンケートおよび自己評価アンケートを実施し、その結果を基に改善を図った。 【アンケート結果については単年度だけではなく時系列で分析を行い改善に繋げて行く。】
(4) Ⅲ類クラブ活動の充実の推進	①各クラブが使用する生駒キャンパスグラウンドの整備を検討する。	練習設備の整備進捗状況	①ラグビー部グラウンドについては昨年度に人工芝敷設、夜間照明増設工事を実施し、練習環境を改善することができたが、野球部グラウンドの拡張や寮の改修については、国定公園内の新たな開発となることから対応策を含め検討している。 【一部の生駒グラウンドの整備が進み出したことの意義は大きい。今後はクラブの要望を聞きながら、寮を含む施設の改善を図る。】
	②大学との共用グラウンド利用の調整を行い、利用時間の確保をする。	大学とのグラウンド共有利用状況	②ラグビー部が利用する生駒第8グラウンドについては、大学ラグビー部指導者と協議をして双方が活用できるよう調整した。また、大学第1グラウンドおよび南キャンパスグラウンドについても大学と利用時間の調整をして、クラブ活動と体育授業の時間を確保した。 【引き続き大学クラブとの調整も含めグラウンドの有効活用を推進する。】
	③Ⅲ類クラブ指導者の後継者育成を進めるため、若手指導者の採用、外部からの指導者招聘を図る。	指導者の育成・採用状況	③将来の指導体制を見据え、ラグビー部、吹奏楽部等において外部からの若手指導者を採用し、配置換えを進めた。 【クラブ活動にとって、若手指導者の育成・採用は不可欠であり、今後も長期的視点に立って指導者の育成・採用を検討する。】
(5) 生徒のマナー向上と挨拶の励行の促進	①登下校指導を実施し、マナーの向上や挨拶の励行を促す。	生徒のマナー向上	①ホームルームや集会においては引き続き、マナーの向上や挨拶の励行を呼び掛け、本校生徒に対する好意的な意見をいただいた場合は、集会などで生徒に伝えた。また教員が校門等に立ってマナー指導を行った。

	②生徒会・運動部を牽引役として挨拶の励行を促すとともに、教員からも積極的に声掛けをし、自主的に挨拶をする雰囲気を醸成する。 ③新入生オリエンテーションにおいて、校則の遵守を徹底するとともにマナーの向上や挨拶の励行を促す。特にSNSについては、具体例を挙げながら注意を促す。 ④校則の点検を行い、必要に応じて改正を行う。	生徒の挨拶状況 生徒のマナー向上 校則の点検と改正	【日常的にホームルーム等でTPOに応じたマナーの向上に向けた働きかけを行っていく。】 ②教職員が積極的に生徒に声掛けや挨拶をするようにした。併せて運動部では指導者が牽引役となって挨拶を行うよう部員に指導した。 【挨拶運動の取り組みは大変有意義であり、引き続き教員からの声掛けも行いながら、挨拶の励行を進めるとともに、生徒のマナー向上を目指す。】 ③入学式翌日に新入生オリエンテーションを実施し、校長・生徒指導部・教務部・学年から校則・マナーの遵守についても説明を行った。特に SNS については新入生対象に講演会を実施し、注意を促した。 【毎年新入生に対して講演会を実施するとともに、日頃より指導を行うことで生徒の意識向上を図る。】 ④これまで学内で生じた事案を精査し、生徒指導部を中心に校則の点検を行い、これまで禁止していた携帯電話の持込みを令和8年度から認めることとした。 【引き続き学内で生じた事案と社会変動を踏まえた校則の改正を目指す。】
(6) 学校行事の充実とⅢ類以外の課外活動の活性化	①各合宿・研修の実施時期や行先・内容等を随時見直し、より効果的で満足度の高い行事にする。 ②業者選定において、魅力的で無理のない行程、食事内容、安全性等の内容を考慮して選考する。 ③中学や高校Ⅰ類におけるクラブ活動やプロジェクトワークの充実と生徒の参加を推進する。	生徒へのアンケート調査 生徒の満足度向上 学校行事の実施状況 仕様書の作成と業者選定方法 クラブやプロジェクトワークの活動状況	①今年度実施した宿泊行事については、入札で選定した業者により充実した行事となった。また、芸術鑑賞は京都南座でルパンⅢ世を基にした新作歌舞伎の鑑賞を行い、生徒たちにとって満足度の高い行事となった。 【生徒によるアンケート結果も踏まえ、安全性を確保した上で、充実した満足度の高い行事を実施する。】 ②次年度以降に実施する宿泊行事については、旅行業者から提案を受け、基本的な仕様と合わせて魅力的な行程、食事内容、安全性等の満足度が高い提案をした業者を2社選定し、その2社による総合型入札により業者選定を行った。 【引き続き本法人の調達規程に沿って適切な業者選定を行う。】 ③中学や高校Ⅰ類のクラブ活動では新たにアカペラ同好会を正式に承認し、テレビ出演に至った。プロジェクトワークでは内容の充実と生徒の参加を増やすようにしており、万博でのプレゼンテーションや英語弁論大会への参加など、その学習成果は生徒の学習意欲の向上と学外へのPRにも繋がった。

				【生徒からの意見も踏まえ、安全性を確保した上で、充実した満足度の高い活動を実施する。】
2. 大 阪 産 業 大 学 お よ び 附 属 高 校 と の 連 携	(1) 大阪産業大学との スポーツクラブ交流の 促進	①大阪産業大学とのスポーツクラブの合同 練習および施設の共同利用を通じた情報交 換、指導力の向上、技術力の向上の推進	クラブ間の合同練習等の実施	①生駒第8グラウンドについては大学ラ グビー部と、第1グラウンドについては 大学スポーツ健康学部および学生部と調 整をして共同利用することになった。ま た、バスケットボール部などは大学と合 同で練習を行うなど、指導者同士の情報 交換を行うとともに技術力の向上を目指 した。 【クラブ間の連携が強まりスポーツ推薦 にで大阪産業大学への進学にも繋がって いる。今後は一部のクラブに留まらず交 流を拡げたい。】
	(2) 「特別推薦入試制 度」による大阪産業大 学への進学に関わる連 携の強化	②「特別推薦入試制度」に関する大学入試 センターとの協議の推進、特にⅢ類生の 「高大連携特別奨学生制度」による進学者 確保の促進	特別推薦入試制度による進学実績	②大学の入試センターおよび学生部と連 携を取りながら「特別推薦入試制度」を 活用し、大学クラブでの活躍が期待でき るⅢ類生が大阪産業大学に進学した。 【Ⅲ類生が特別推薦入試制度により大阪 産業大学へ進学する実績があり、今後も この制度を活用して大学との連携を深め たい。】
	(3) 附属高校とのスポ ーツクラブ交流の促進	③附属高校とのスポーツクラブの合同練習 および施設の共同利用を通じた情報交換、 指導力向上、技術力向上の推進	クラブ間の合同練習等の実施	③附属高校との間で、野球部、サッカー 部、ラグビー部などクラブ交流を実施 し、指導者間の情報交換とともに技術力 向上を推進した。 【一部のクラブではあるが練習試合も行 うことができた。今後は定期戦の開催な ども検討したい。】
3. 地 域 と の 連 携	(1) 地元地域との連携 および貢献の推進、地 元地域に理解される学 校の実現	①生徒会やクラブを中心として、地元地域のイ ベント、小中学校の行事などに積極的に参加 する。 ②大東市、四条畷警察署などとの連携を深 め、地元自治体の活動・取り組みなどに協力 する。	地元地域のイベントへの参加 地元の消防・警察や自治体との連携	①地域の小学生を対象とした実験教室フ ェスタを開催し、理科研究部、ロケット 研究部、生物部、ドローン同好会および プロジェクトワークに所属する生徒が実 験教室を実施した。また、吹奏楽部が全 国の地域行事に積極的に参加した。 【地元地域との連携を大切にし、生徒に とっても有益な経験となるよう努め る。】 ②大東四條畷消防組合の協力により、職 員研修として普通救命講習を実施し、四 條畷警察署との連携で自転車安全運転講 習を実施し、本校がセーフティバイシク ル推進校に認定された。また、地元自治 体が行う行事に協力した。 【引き続き地元の消防・警察・自治体と の連携を推進していく。】
	(2) 災害等の非常時に 地域への支援・協力を 実行できる体制の構築	①災害時避難所としての指定を踏まえ、災害 時に必要となる発電機等の設備整備の推進	災害時に向けた検討の状況と取り組み	①災害時の非常食については、生徒用と あわせて職員用を保存することとした。 発電機の購入について、必要とする発電

				量や動力源、燃料の貯蔵等を含めて現在検討を行っている。 【災害時の状況を想定し、必要となる貯蔵品や設備整備を進める必要がある。】
4. キャンパス整備	(1) 校舎の集約と 100 周年事業に向けた「キャンパス整備計画」の策定	①東館の移転や各種イベントで使用する講堂の設置などを含む校地活用計画を検討する。 <		

		②破損が激しい東館教室扉の更新を検討する。 ③施設・設備の点検を実施し、優先順位を決めた上で修繕・改修・更新を行う。	更新への対応状況 修繕等への対応状況	【大規模な工事になるため十分な準備が必要である。】 ②東館教室扉について、桐友会の支援により破損の激しい扉を新しく更新し、その他破損のある扉は補修を行った。 【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円滑にできた。今後も保護者目線での支援をお願いしていきたい。】 ③老朽化していた給水機の浄水機能付き給水機への取替と増設、一部破損していた東館ホールの床の改修工事、老朽化していた教室等のカーテンの取替、窓からの直射日光を避けるための遮熱シート張り付け等を桐友会の支援を得て実施した。 【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円滑にできた。今後も保護者目線での支援をお願いしていきたい。】
	(5) ICT 教育の推進環境の整備	①現システムの問題点の点検および教員ニーズの把握に関する調査・検討の推進、教育インフラの整備	整備状況の確認	①教務部と法人本部情報管理部署の担当者を中心に調査や検討が進められており、引き続き法人と連携を取りながら整備を進めていく。 【ICT教育の推進も踏まえ、継続した整備の推進が重要である。】
	(6) 教員へ PC 貸与	①教員へ PC 貸与および情報セキュリティの強化	セキュリティの管理体制の整備	①令和7年度予算でノートパソコンを購入のうえ、各教員に貸与した。また、これまで教員が利用していた個人パソコンについては原則ネットワークへの接続を禁止し情報セキュリティの向上に努めた。 【運用ルールの周知徹底と管理体制の整備を進める。】
	(7) 老朽化した電気機械・器具の更新	① リバティホールの音響機器の更新を行う。 ② 食堂の調理器具の更新を行う。	各機器の更新 各機器の更新	①不具合があったリバティホールの音響機器については、予算化のうえ、7月に更新した。 ②古くなっていた食堂の調理器具については、予算化のうえ、8月に更新した。 【今後においても生徒への教育や学校生活に支障が出ないよう、老朽化した機器備品等の更新を計画的に実施する。】
	(1) 桐友会・桐友会 OB 会・同窓会の 3 つの外郭団体との連携強化および学校による団体間連携の促進	①各会の役員会および総会への教職員・管理職の出席による情報共有と意見交換の促進、連携の強化。また、学校を仲立ちとした桐友会・桐友会 OB 会・同窓会の横の連携の強化	役員会や総会への教職員の出席状況 役員との情報交換の実施	①桐友会、桐友会OB会、同窓会の3つの外郭団体との連携を強めるために、役員会や総会などに管理職が出席し、情報共有・意見交換などを行った。 【今後も引き続き、外郭団体との連携強化への取り組みを推進する。】

5. 卒 業 生 お よ び 保 護 者 と の 連 携 の 強 化	(2) 各会からの支援の有効性の向上	①学園創立 100 周年事業に向けた寄附金の依頼をする。 ②各会役員と連携し、内容を精査した上で支援を依頼する。 ③中学および高校Ⅰ類への支援、または中高全体に対する支援について依頼する。 ④高校Ⅲ類クラブの全国大会出場時の支援について依頼する。	支援の有効活用 支援の有効活用 支援の有効活用 支援の有効活用	①学園創立100周年事業として桐友会と同窓会等には、事業内容が具体的に確定してからあらためて寄付の依頼をすることとした。 【桐友会、同窓会等との連携のもと、学園創立100周年事業を踏まえ、具体的に寄付のお願いしていきたい。】 ②学校からの依頼事項については各会役員と調整をしたうえで、支援を依頼した。 【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円滑にできた。今後も各会役員にご相談の上、支援をお願いしていきたい。】 ③老朽化していた校内の給水機について、桐友会にマイボトルに給水できる浄水機能付き給水機に入替をしていただいた。また、老朽化し破損もあった室内カーテンを交換し、あわせて太陽光を防ぐ窓ガラスへの遮熱フィルムを施工していただいた。 【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円滑にできた。今後も各会役員にご相談の上、支援をお願いしていきたい。】 ④野球部の甲子園出場に向けて、桐友会より応援グッズ購入の支援を受けた。また、ラグビー部の全国大会出場に当たっては応援者の入場券に対する支援を受けた。 【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円滑にできた。今後も保護者目線での支援をお願いしていきたい。】
	(3) 必要に応じた各会の規約の見直し	①各会の役員との協議および必要に応じた規約の見直し	規約の見直し検討	①管理職が役員会に出席し、必要に応じて規約の見直しなどの検討を行った。 【今後も引き続き、本校の規定とのバランス等を考慮しながら、規約などの見直しを検討する。】
	(4) 保護者とのコミュニケーションツールとしての Web サイトおよびミマホルメの活用	①Web サイト・ミマホルメ・MS Teams を活用した情報発信の強化およびリアルタイムでの保護者への情報伝達の促進。また、アンケート機能の活用による保護者の要望の収集と学校運営への反映	情報発信状況	①保護者全体への情報発信については、Web サイト、ミマホルメ、MS Teams 等を活用し、個別案件は懇談会での面談とともに電話連絡などで随時保護者と情報交換を行っている。また、アンケート機能を利用して保護者の要望の収集を行い、学校運営に反映するようにした。 【今後も欠席連絡やクラスの連絡などに、ミマホルメや MS Teams を利用することにより円滑な情報伝達を推進する。】
	(1) 学則定員、募集定員および学納金の継続	①志願者増とブランド力強化を目指すコース編成を検討する。	志願状況における検証と分析の実施	①高校エクシードクラスで培った授業・指導方法を活かし、高校Ⅰ類にはエクシ

6. 安 定 し た 運 営 と ブ ラ ン ド 力 の 強 化	的な見直し			ードコースを設置し、近年志願者数が少なくなったⅡ類を廃止した。また、中学校には新たにプロシードコースを設置した。 【各コースの成果を確認し、次年度以降の生徒募集や教育方法・内容等の改善に反映する。】
		②入学試験の出願状況、教員数、教室数および中高の学則定員（中学校 600 名 高等学校 2,160 名）を考慮し、中高の募集人数およびⅢ類クラブの募集人数を検討する。	募集人数の見直しの実施	②国や大阪府のクラス定員を 40 人以下とする方針や、本校教室数を考慮し、令和 8 年度中学校の募集定員は、1 クラス 35 名として 6 クラス 210 名、高校の外部募集定員は 1 クラス 40 名として 10 クラス 400 名とした。 【少子化が進む中、入学者数等を踏まえ、毎年度、募集人数の検証・確認を行う。】
		③入学検定料、入学金および授業料の見直しを図り、安定した収入の確保を目指す。	入学検定料、入学金および授業料の検討・見直し状況	③令和 9 年度入学生から入学金を 30 万円に、入学検定料を 2 万 5 千円に改定することとした。なお、授業料の見直しについては、令和 8 年度に実施予定の外壁補修工事が対象になるか大阪府に確認を行ったが、条件に該当しないとのことで改定の決定には至っていない。 【授業料の見直しに向けて検討・準備を進める。】
	(2) 効果的な広報活動による入学者の確保	①中学校や塾の訪問の効果を検証し、時期や回数などの検討を行い、より効果的な広報活動を行う。 ②入試説明会の開催方法、時期および内容を検討し、より効果的な入試説明会の開催を図る。 ③ホームページによる広報効果の充実のためホームページサーバーを更新する。	訪問効果の検証と見直し状況 説明会の実施および参加状況 広報活動の検討・見直し状況	①中学校や塾に計画的に訪問しており、説明会への参加者数は増加傾向となった。 【これまでの広報活動を検証し、より効果的な広報・訪問活動を行う。】 ②入試広報・企画部を中心に管理職と入試説明会の開催方法や時期を検討し、令和 7 年度は新たに小学校 5 年生向けプレテストを実施した。 【入試説明会の内容やプレテストの実施状況を検証し広報活動の改善に活かす。】
	(3) 広報・渉外部の充実	①入試広報・企画部と教員の広報担当との連携強化および積極的な広報の展開	ホームページの見直し実施 学校内連携と広報活動の状況	③Webサイトの内容の充実を目的として、新たなバージョンのCMS（コンテンツ管理システム）が利用できるWebサイトサーバーに更新した。 【Webサイトサーバーによる効果を検証し更なる改善に繋げる。】 ①入試広報・企画部と広報担当教員が連携して、中学校および塾の訪問とともに学外の進学説明会に積極的に参加した。 【活動内容と効果を検証し次年度の広報活動に活かす。】
	(4) 高校エクシードコース(クラス)を始めとするⅠ類の進学実績および	①Ⅰ類の進学実績（難関国公立大学、国公立医学系大学への合格）の向上を目指す。	難関大学の合格者数	①令和8年入試において、東京大学3名、京都大学38名、大阪大学24名、神戸大学19名、東北大学3名の合格などそ

	Ⅲ類のクラブ実績の向上、本校のブランドイメージの強化	②Ⅲ類クラブの実績（全国大会出場、全国優勝）の向上を目指す。 ③在籍生徒と保護者の満足度を向上させ受験生にアピールする。	各クラブの全国大会等への出場 生徒へのアンケート調査	の他国公立大学に多数合格した。 【進学状況を分析し、更なる進学実績向上に向けた改善事項や取り組み内容について教員間で共有することが重要である。】 ②野球部が選抜高等学校野球大会に出場し優勝した。ラグビー部はサニックスワールドラグビーユース交流大会で2年連続優勝、全国高等学校ラグビーフットボール大会で3位となった。ゴルフ部は全国高等学校ゴルフ選手権大会団体の部に出場し女子2位、男子5位となった。吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクール銀賞となった。 【更なる実績向上に向けた改善事項や取り組み内容について教員間で共有し実行する。】 ③学習合宿、修学旅行、芸術鑑賞等の学校行事やⅢ類以外のクラブ活動の充実を図るとともに、習熟度別、志望大学分野別に授業の実施や、新たな教育ツール導入によって全生徒の学力向上と大学進学実績向上を図った。 【取り組み内容や結果を検証し次年度以降の取り組みに活かす。】
	(5) 優秀な教員の確保	①教員募集の早期開始および新任者の待遇の見直しの検討	要員の充足状況	①早期からWebサイトや採用説明会を通じて募集を行い、応募者に対しては随時選考を進めている。しかしながら、一部の教科については応募者が少ないことや、優秀な人材は他校で1年目から専任採用される傾向にあり、人材の確保に苦慮している。 【早期に人事採用計画を策定し募集活動を行うとともに、応募者に対して本校の魅力を積極的に伝える。】
7.コンプライアンスへの取り組み	(1) 各種規程の整備・周知およびコンプライアンスの徹底 (2) 「学校法人大阪産業大学情報管理基本規程」に基づく、法人のサポートのもとでの情報管理体制の構築	①規程の改正・制定時における教職員への速やかな周知および必要に応じた詳細な説明 ①情報システム管理のルールを教職員へ周知徹底する。また、本校教職員による情報管理体制の構築を図る。	規程の改正・制定時における周知方法 情報管理の強化	①本校関連規程の改正や制定があった場合は、職員会議等で周知するとともに説明を行っている。また、他機関の規程の改正については理規達の掲示とともに、詳細については規程管理システムで確認するようにしている。 【関連規程の改正や制定の周知方法を電子化し、都度通知が可能な体制とする。】 ①ICT担当教職員と事務職員および法人本部情報管理部署で打合せと調整を行い、ノートパソコンを教員に貸与するとともに情報管理体制の構築を図った。 【運用ルールの周知徹底と管理体制の整備を進める。】

	(3) 人権教育・ハラスメント教育・体罰・いじめ等に関する研修の実施	①安心安全な教育環境の確保に向けた人権教育推進部・生徒指導部・保健部の主導による各種講演および研修会の実施、教職員の啓蒙、校内体制の強化	道徳教育や講演会の実施	①令和7年度に4回の教職員研修を実施し、あわせて職員会議においても各分掌の輪番制による研修を実施し、教職員への啓蒙と体制の強化を図った。 【研修内容の充実とともに参加率の向上に努める。】
	(4) クラブ活動におけるコンプライアンスの取り組みの推進	①クラブ活動における活動方針の策定	クラブ活動計画書および活動報告書	①クラブ活動方針を策定し、全クラブからクラブ活動計画書および活動報告書を提出するようにした。 【活動内容の確認を行うとともに、安全管理に関するルールを定め順守するよう努める。】